

# 特別支援学校

## 新しく学校をつくり

既存校も**設置基準の水準を**

**教室不足と過密化  
解消は待ったなし**

障害をもつ子どもたちが通う特別支援学校（特支）。いま教室不足と過密化は極めて深刻です。この間、日本共産党は袖ヶ浦、市川、松戸、松戸つくしなどの特支を訪れ、施設状況を調べ、関係職員の訴えを伺いました。6月21日の本会議で、特支の実態を示し、すみやかに改善するよう県教育委員会に対して厳しく迫りました。

### 音楽…楽器は大きな音をだせない 図書室…廊下に本を並べる

ある特支では、約40年前の開校時と比べ、児童生徒数が4倍に。ところが教室数は2倍です。やむを得ず音楽室、図書室、廊下等を普通教室に転用したり、一つの教室を2クラスが一緒に使う「合同使用」が状態化しています。音楽は周囲の教室に迷惑にならないよう気を使い、子どもがパニックになってもクールダウンの部屋がなく、不安の連鎖で他の生徒も大声をあげたり、手を出すなど、子どもも先生も辛い思いをしています。

### 教育長…工夫が必要だが重要な課題、改善に努める

日本共産党は「子どもの成長や権利が脅かされ、一刻も放置できない」と県教委の責任を追及。教育長は「児童生徒の増加に伴い合同使用などの工夫が必要なのは重要な課題と認識。改善に努める」と述べました。



↑廊下の一部を仕切り（写真右側）、図書室代わりに



↑一つの教室をカーテンで二に分け、2クラスで使用。



↑ブレイルームをいくつか区切って、普通教室にしている特支もある。



**加藤 英雄**

(柏市)  
総務防災常任委員



**丸山 慎一**

(船橋市)  
県土整備常任委員



**みわ 由美**

(松戸市)  
健康福祉常任委員



**浅野ふみ子**

(市川市)  
文教常任委員

### 日本共産党の緊急提案

#### ●昨年4月から施行された特別支援学校設置基準の水準を既存校もめざす

学級編成は、障害種別ごとに小・中6人以下、重複障害は3人以下。

#### ●当面、児童生徒100人程度の10校を新設する

県の計画は新設3校、教室棟増2棟。詰め込み解消には全く足りません。